

イラストはがきには黒一色ではつきりと
薄い鉛筆書きはボツにします。
ペンネーム希望の人も住所、氏名、年齢
を忘れずに。採用分には粗品を発送。
締め切りは毎月15日。それ以降に届いた
ものは翌月に回します。
◆あて先 〒990-112 白根市大字白根1-2
35 白根市役所広報しろねイラスト係



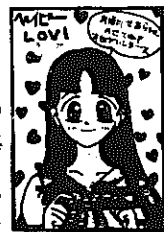
▲PN羽入みずきさん
(庄瀬・7歳)



▲PNでんでろり〜んさん



▲PNたけるさん(高井東)

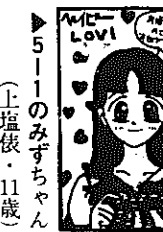


▲5-1のみずちゃん
(上塩俵・11歳)



▲PN遠野ゆとりさん
(東笠巻)

▼PNモルル3世さん
(大通南)



広報
クイズ

【応募方法】 はがきに答え、住所、氏名、年齢、ご意見を書いて白根市役所広報係(〒990-112 白根市大字白根12335)へ。締め切りは1月16日(必着)。正解者の中から抽選で5人に5000円の図書券を、3人に県立自然科学館招待券をペアで差し上げます。

【問題】

- 平成7年国勢調査で白根市の人口伸び率は県下112市町村中何位? (ヒント114ページ)
- 11月18日に開かれた男の料理教室で使った魚の名前は? (ヒント114ページ)
- 肝臓で、アルコールの何割が処理される? (ヒント116ページ)
- A119割 B113割 C115割
- 【当選おめでとう】 先月の正解は①A②A③Aでした。【図書券】 小林真(浦梨) 滝沢道代(館) 小林美智子(大通南) 大谷チイ(東町) 斉藤由希(大通南) 【自然科学館招待券】 田村礼子(浦梨) 小山康徳(諏訪木4) 神山明美(白根)

■今月のハガキから

○最近、とても交通事故が多いようです。ニュースなどで聞くたびに気を付けようと思います。また、歩行者と特に自転車に乗っている人たちがマナーを良くしてほしいものです。ひかれても不思議ではないような乗り方をしている場合があります。車は止まってくれらるだろうと思われような乗り方は絶対にやめてください。私も車の運転は、慎重に努めます。(M)
○もう12月でいよいよ受験生という実感がわいてきました(遅いような気がする)。志望校目指してがんばるぞー。(Y)

市民文芸

俳句

バス停めて羊を通す四の秋 吉川八重子
てこばこな花梨に重き風ありし 堀内十子
秋萩を焼いて田の神送りけり 成沢 素明
雪吊の繩千本のゆるみなく 公條 雪夫
秋風の中の小さき吾が身かな 猪股 南魚
秤よりころけし柿をまけくれし 木村 トリ
煖って居りし落葉にひと路 五十嵐寛吾
大いなる旅の終りて冬仕度 笠原 里津
履き慣れしジョギングシューズ天高し 和泉 伸子
間引菜のひと握りづつ来ね売る 山口 初野
佗助や午後早や閉さす庄屋門 小野 義之
鶯飛んで冬雲重き奥越後 間島さよ子
荷焚きし香りといて人に逢ふ 真島つぎえ
陽の匂ひ翠の匂ひや屋敷敷 山田 栄一
小春日のルーベで探す旅の地図 小林 なお
小春日の光差し込む結婚の家 知野信一郎
吹き溜る落葉の私語をつづる音 小林富沙子
夕野分鳩いびつに暮急ぐ 金子 千代
秋耕やポケットに鉛二つ三つ 塚本 静子
魚屋のだみ声市の初あら 間島 秀穂
短歌
里芋の茎を軒端に吊る煙 星 ハツノ
昔の食を細々と説く 我が悩み知り胸に抱きしむ 田中 恭子

病室の窓の朝空雲よされて
虹たつ方を鳩の群れ翔ぶ
杖つきたたどと歩む躰の背に
小春日の和の日差し陽更ふ
呱呱の声力の限りひびかせて
男児誕生双手に重し
速地なる孫の婚儀に亡き夫の
写真を胸にをさめてゆかん
物を乞ふ乞食と見るに我が妻は
晩食ふ飯まで握りてやりぬ
成人にまだまだ足りぬ孫なるが
国土防衛と急ぎ帰らぬ
風し吹く田圃へ飛来し白鳥の群
落穂つまみか舞ひ遊びたり
震災と事件おきたり今の年
迎る年の安全祈りて

川柳
靴の底に忍の一字を詰めておく 田村 恒夫
通学路いじめを背負っているカバン 高橋祐四郎
石橋を叩いて知事が又出馬 中村 尚治
ライバルに揺さぶりにかけてみる自信 ウエディングドレスに秘めた母の汗 早川 英男
日曜も稼ぐ夫婦で組む予算 山岡 フミ
サンブルに騙され洗剤を食う 吉川 彰
約束を破棄した指が曲らない 今井 七郎
点鬼簿に我が名を記す墨を磨る 織田 福治
ルージュの色を替えて昨日の未練断つ 織田 セツ
夢一杯詰めてうれしいランドセル 大谷 龍吉
昨年の顔が欠けてるクラス会 後藤 マサノ
お笑いのエキスを持って友がくる 佐藤 トミノ
先頭を歩くと揺れる影法師 佐藤 ヨキ

市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただきます。あて先は広報広聴係(〒990-112 白根市大字白根12335 白根市役所企画財政課)です。

思い出



小柳ノイ (中大郷)

私が大郷に嫁いで、もう六十五年にもなります。長い人生を歩み続けて参りましたが、よくぞここまで長生きさせていたいただいたとただ感謝するばかりです。

戦争のただ中では、貧しい生活をして三度の食事も分けて食べました。私は、その苦勞の中で七人の子供に恵まれましたが、四人も子供を亡くしました。五人の兄弟のうち、三人が軍人で厳しい戦争に行き、二人は戦死しました。だから戦争の話聞かされると涙が流れてきます。今の若い人たちは、戦争のことなど話しても分からないと思います。私は一日も戦争当時のことを忘れたことがありません。

家庭菜園の恵み



真柄フエ (下鷲ノ木2)

宅地内に百坪ほどの家庭菜園を作っています。農園作業は主人と二人で楽しみながら行っています。昨年、小型の耕運機を購入したところ、主人は喜んで耕し、畝を作ってくれます。肥料をよく混入した土からの作物は、生育も上々で、専門家からはめられていま

我が人生



滝沢シゲノ (五六の町)

小学校を卒業すると、すぐに地元の織物工場に勤めた私は、昭和十二年に小須戸町の生家を離れ、当時従業員が七百人くらいもいた理研電線白根工場の紡織工場に転職しました。当時は、まだ寄宿舎がなく下宿住まいで、親元を離れて寂しい思いもしましたが、縁あって滝沢家に嫁ぎ、以後戦争のためもあって波乱の人生を送ってきました。今は孫もひ孫もいて、幸い商売も繁盛。この上ない幸せな日々を過ごしています。

いくら時代の変化があつたとしても、これでよいのだろうかと思うくらい幸せ感でいっぱいです。この先残り少ない人生を他人から憎まれず、恨まれず常識ある社会の一員であるよう心掛け、雄偉の嫁に終身を託す思いの私です。

